

【フコイダンのメカニズム】

Point 1 健康素材としての魅力

血液凝固抑制効果、抗ウイルス、抗菌効果、抗酸化作用、抗がん・抗転移作用(新生血管阻止による・ガン細胞着床阻止による)抗アレルギー作用(Th1/Th2比調節抗炎症作用(炎症細胞抑制)、抗生活習慣病作用(悪玉コレステロール低下作用)、中性脂肪低下作用、中性脂肪抑制作用、コレステロール抑制効果、血圧上昇抑制効果、抗腫瘍作用、抗胃潰瘍効果、血清尿酸値の低下作用、整腸作用、抗アレルギー効果

大石一二三博士のプロシーディング(論文)より

「ウイルス対応も期待！ 褐藻類のフコイダン レセプターブロック」

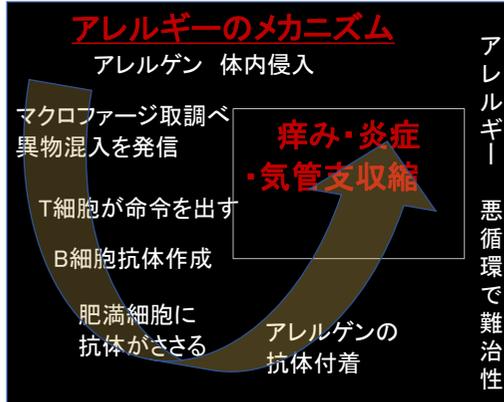
近年盛んに耳にするフコイダンの歴史は非常に古く¹⁾、1913年にスウェーデンのキリン(Kylin)によって褐藻類から見つけ出され、彼によってフコイダンと銘々されている。

その後1980年代に至るまで特に顕著な研究は成されてこなかった。その間の研究はBernardiら(1962年)による抗血液凝固作用程度である。しかし、1980年にUsuiらがザルコーマ180細胞によるフコイダンの抗移植腫瘍作用を発表して以来、フコイダンの生理的作用が注目され、1990年代に入ってからフコイダンの多岐に渡る作用が明らかにされている。生活習慣病の改善及び予防に重要な物質として近年ますます重要視されてきている。特に注目されるのはレセプターブロックでヘパリンやヘパラン硫酸と類似していることが明らかになっている。血栓や血液凝固、出血など血管や循環器等も予防と健康保持増進に期待出来るのもフコイダンの魅力の一つである。

長時間椅子に座っていたことで起こるエコノミー症候群などの血液凝集反応予防にもフコイダンの効果は期待出来る。

多種多様な作用

Point 2 抗アレルギー作用のメカニズム



Point 3 フコイダンはアンチトロンビンに作用し

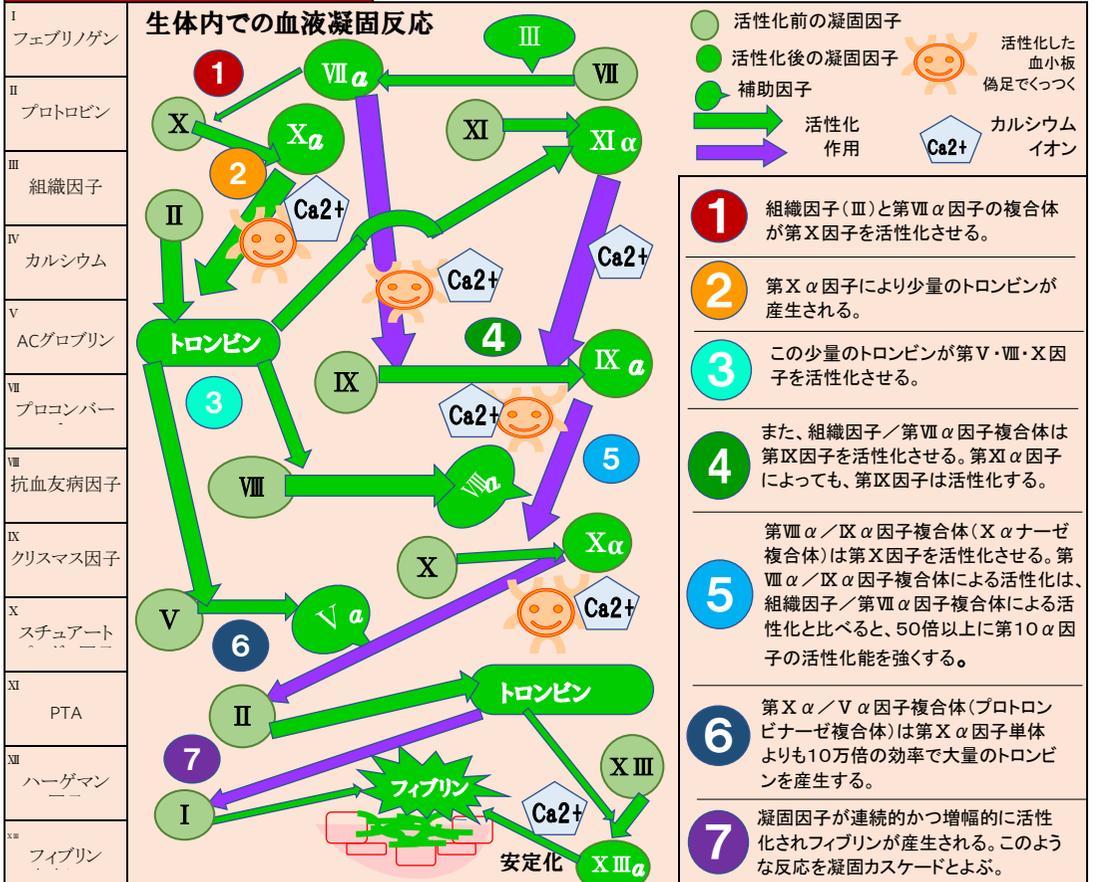
1. 血液凝固抑制効果

赤血球は表面のシアル酸糖鎖の使用により他の赤血球と反発し凝集しません。



しかし、ウイルスなどの持つ分解酵素の作用により変質すると凝集し易くなります。

抗凝固活性を数十億以上に高める。



¹⁾J.Bostock et al., The natural history. Pliny the elder, London, Tallor and Francis(1855).

本資料はハイドロックス研究所・ハイドロックス株式会社および株式会社SQLで共同作成したパンフレットです。